



# 学校だより

6月号

令和3年6月1日  
横浜市立善部小学校  
校長 福田 美穂

## 体験の積み重ね

学校長 福田 美穂



5月に入って、どの学年も植物や生き物を育て始めています。「おはようございます。」と正門であいさつしたとたん、自分の育てている朝顔やミニトマト、キュウリ、ホウセンカなどのそばに駆け寄り、変化を観察しています。「芽がいっぱい出てたよ。」「昨日より大きくなった感じ。」「茎がのびで倒れそうになってるから、何とかしなきゃ。」「水をやりすぎたかな。水たまりみたいになった。大丈夫かな。」友達のものとは比べたり、お互いに相談したりしています。ランドセルが植木鉢やプランター、花壇の前にずらっと並んでいるのが、今の善部小の朝の光景です。

また、飼育箱を手に登校してくる児童も数名います。正門を入ると、だいたいいつも集まる場所があり、そこで、持ってきた虫やトカゲなどを披露しています。どこで捕ったのか、どんな風に飼うといいのかなど、楽しそうに情報交換もしています。

5年生の教室にはメダカの水槽があり、朝の支度が終わった時、休み時間にはいつも誰かが見守っています。理科の学習ということもありますが、少しの変化も見逃さず大事に育てたいという愛情をもって生き物を育てる気持ちが感じられる姿です。

このように子どもたちの成長には実際に体験することは欠かせません。こんな風にしたいという目標や目的をもてば、子どもたちは自分たちで解決方法を考えたり、調べたりするものなのです。その中で、人や生き物に対する接し方を覚え、うまくいったりいかなかったりする経験を積んで心も成長していきます。学校では、様々な体験活動（話し合い活動も含めて）を取り入れていくようにカリキュラムを組んでいます。学校だけでなく、各ご家庭、地域でも体験活動を積極的に取り入れてくださっていることで、子どもの学びをより豊かにし、根っこの太い大人になることでしょう。私たち教職員は、子どもたちの小さなつぶやきも逃さず、大切に、学びを支えていきたいと思えます。

### 《水泳学習について》

文科省や横浜市教育委員会からの水泳指導の注意点として、マスクを着用しないため、児童の間の距離を前後左右常に1~2m以上あけなくてはならないとなっています。本校のプールの状況を考えると、例年のようにブロックで入るところか、学年で入ることもできません。また、水泳指導中の密の解消のための職員指導体制が難しく、児童の安全を確保することができないと考えました。いろいろと検討を重ねましたが、善部小学校では今年度、プールに入っの学習はしないことといたしました。教室で「水遊び・水泳運動の心得」などの安全指導を行います。誠に残念ですが、2年間続けて水泳学習の実技をすることができないことについて、ご理解をいただきたいと思えます。



←学校ホームページのQRコードです。

子どもたちの学校生活を毎日更新しています。ぜひご覧ください。